

過熱感が和らぐ米労働市場

ポイント① 雇用統計はほぼ市場予想の水準

4月7日に発表された3月の米雇用統計は、非農業部門就業者数が前月比で23.6万人増となり、市場予想とほぼ同水準でした。失業率は3.5%と2022年以降の水準が概ね続いています。一方、インフレ動向を左右するとされる平均時給は前年同月比で+4.2%と2月の+4.6%から鈍化し、2021年6月以来の水準に減速しました。

ポイント② 労働市場は需給が緩和

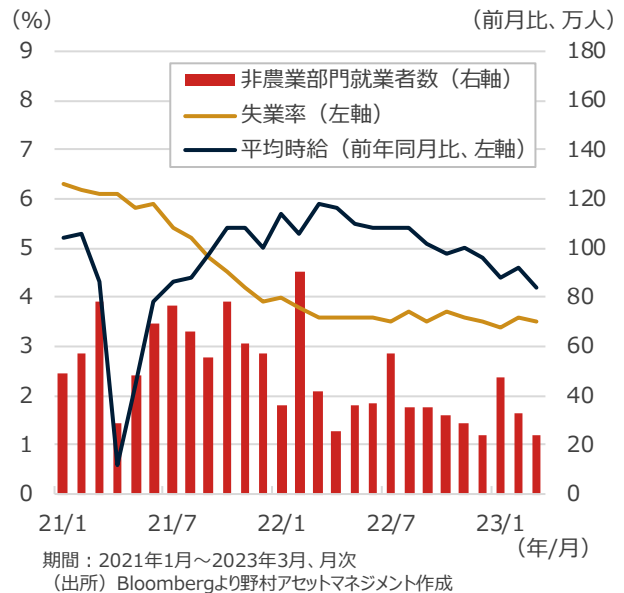
4月4日に発表された2月の雇用動態調査（JOLTS）では求人件数が1月から大幅に減少し、労働需要の減速が観測されました。一方で、3月の労働参加率※は62.6%と前月の62.5%から小幅に上昇しており、労働供給は改善しているようです。このように、労働需給が緩和され、賃金伸び率の更なる鈍化が考えられることで、インフレが和らぐことが期待されます。

ポイント③ FRBは利上げ終焉を示唆するか

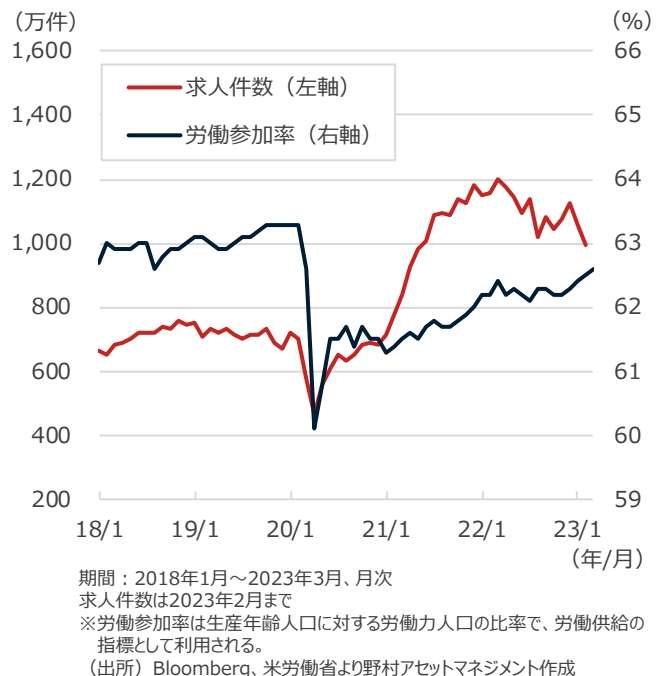
4月7日はグッドフライデーで米株式市場は休場でした。取引が行なわれた米国債市場と為替市場では、米10年国債利回りが前日比0.09%上昇（債券価格は下落）、米ドル円は1米ドル132円台となり、やや米ドル高となりました。

FRB（米連邦準備制度理事会）は利上げ継続の姿勢を示していますが、雇用統計が市場予想とほぼ同水準となり、大きな上振れがなかったことで、大幅な利上げの必要性が薄らいできていると思われる。今後は利上げサイクルの終焉のタイミングに注目が集まりそうです。

米非農業部門就業者数・失業率・平均時給の推移



米求人件数と労働参加率の推移



重要イベント	日付	指標
	4月12日	米消費者物価指数 (3月)
	4月14日	米シガン大学消費者マインド指数 (4月)